

大幅省力化が可能なサトイモ子いも分離機

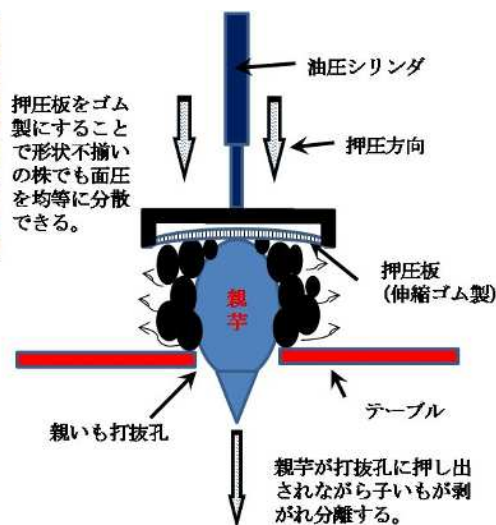
本機の活用により子いもの分離に係る作業時間は慣行手作業の1/4~1/5に短縮！

背景・目的

- ・収穫時に親と子いもを分離する作業は全て手作業
- ・主要品種の「石川早生丸」では分離作業に100時間/10a以上、労働時間の3割以上を占める
- ・過去の知見を基に新機構のサトイモ子いも分離機を開発、収穫作業の省力化を実現

成果の内容

実用新案登録第3217310号(2018年7月11日登録)



押し板をゴム製にすることで形状不揃いの株でも面圧を均等に分散できる。

L:2010mm W:1370mm H: 1600mm 104kg



押し板 (ゴム製)

親いも打抜孔交換リング (親いもの大きさによって交換)

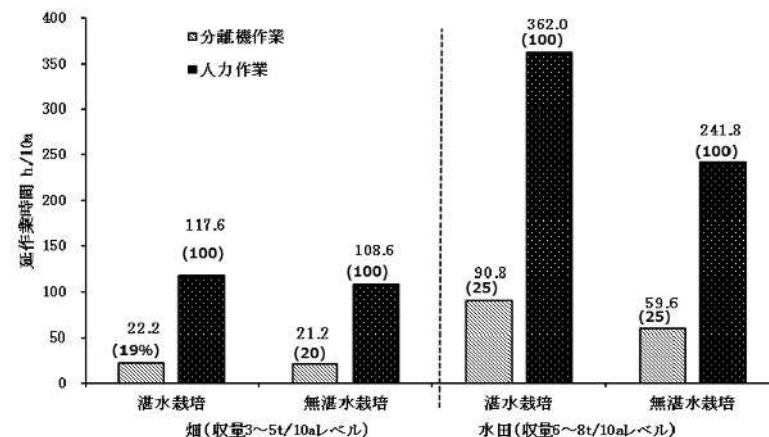
- ・ほ場内移動作業、定置作業が可能
- ・トラクタへの装着可(標準3P対応)
- ・操作は簡便で女性でも扱い可
- ・損傷いもの発生程度は2~5%(手作業と同等)
- ・株の抱土は損傷いも軽減効果がある→掘取時の土篩いは適当で可

期待される効果

サトイモ栽培の大幅省力化と生産の安定化、産地の維持・拡大

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場農機研究室

導入メリット



(分離~搬出工程)

図 子いも分離作業時間の比較

分離工程に係る作業時間は、高収量になるほど増加する傾向があるが、収量の高低に係わらず作業時間は1/4~1/5に短縮され、湛水栽培(畝間に一定水深を保ちながら水をかけ流す栽培法)にも対応可能

普及対象・範囲

サトイモ生産者・県内全域

(緊急展開)